

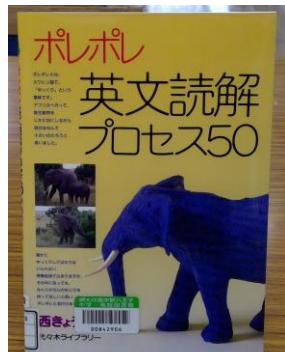
読書の秋がやってきました。 みなさん、松茸を頬張りながら本を読みましょう。

洋書コーナー、充実しています。

英語科の先生たちにたくさんのアドバイスをいただいて、洋書を大量に購入しました。いわゆる爆買いというやつでしょうか。一般的な書籍だけでなく、絵本や漫画など様々なジャンルを取り揃えております。



その中でも特におすすめなのが、英語学習者向けに編集された書籍です（上の写真では青い背表紙のもの）。これらは使用されている単語の難易度が、英語検定においてどの級に該当するのかを示してくれています。中学生ならば3級レベルの本、将来的に留学を希望するような高校生には2級以上の本といったように、それぞれのレベルに応じて選ぶことができます。英語の勉強が単語や文法の暗記だけになってつまらないという人にはもちろんのこと、英語で書かれた本を1冊でも読んだことがあるというのは、とても大きな経験になると思います。この機会にぜひチャレンジしてみてください。



思い出の参考書

中学時代なんとなく理解できていた英語が、高校では手も足も出ない科目になったという人はいませんか。まさにそんな状態のまま大学受験を意識しなければならぬ学年になった私（高3）は、試みに解いたセンター試験の長文がちんぷんかんぷんで絶望したことをよく覚えています。慌てて手に取った英語の参考書が左の『ポレポレ』です。1番薄いというのが選んだ理由でした。しかし、本書はなかなか優れた参考書で、これをじっくり読み込んだ後はセンター試験レベルの長文などいとも容易く読めるようになったのです。例えるならマンキーにけたぐりを覚えさせた後のタケシ戦のようなものです。ちなみに「ポレポレ」とはスワヒリ語で「ゆっくり」という意味のようです。今も昔も、日本の受験生にゆっくりしている暇などないところに皮肉が効いています。それから兄弟校の明大中野の最寄り駅「東中野駅」の近くには「ポレポレ東中野」という映画館があります。極めてマニアックな作品を上映しているので映画好きならば必ずチェックしておきましょう。現在は日本の昭和時代の生活や、ベトナム戦争のドキュメンタリー作品が上映されているようです。

〈つぶやき〉

塾に行かずに参考書で勉強したいという人、ぜひ図書室に相談してください。何でもとはいきませんが、購入できるものが多数あるはずです。

〈あの先生にオススメの本を聞いてみよう〉 ～今回は、中澤彰博先生(高1・理科)です～

本来は理科の先生らしく小難しい本を紹介するのが筋ですが、読書家ではないので学生時代の思い出たちを紹介しますね。全て映画化されているので、書籍と一緒にぜひ楽しんでほしいですね。

「ザ・ビーチ」アレックス・ガーランド

書籍は映画化されるものも多いですが、多くの場合は原作の方が面白いです。もちろんこの本もその類。しかし、映画は我がイケメンことレオナルド・ディカプリオ主演なので十分に目の保養になると思います。

バックパッカーの青年がたどり着いた楽園「ビーチ」。美しい自然に囲まれた環境とそこで見え隠れする人の醜悪さの対比が面白いです。高校2年でこの本に出会い、休み時間の間ずっと読んでいました。私の母校は昼休みの時間はトランプかボードゲームと相場が決まっていたのですが、私の「これ読むから無理」という発言に「あの中澤が本を!？」と、友達が仰天していましたね。紆余曲折を経てバックパッカーの主人公が最後にたどり着く楽園の定義にはしびれるものがありました。

「穴」ルイス・サッカー

児童書です。対象年齢は小学6年生です。子供向けです。あのディズニーが映画化をしています。

無実の罪で放り込まれた更生キャンプで人格形成のために1.5m×1.5mの穴を掘る作業を延々と続ける主人公たちの話。「点と点が線で繋がる」「圧巻の伏線回収」この本の紹介では必ず見かける言葉です。映画好きからすればB級サスペンスでよく見る宣伝で「はいはい、またその謳い文句ね」と苦言を呈したくなるものですが、この本には参りましたと頭を下げました。内容は子供っぽいのですが、子供たちの友情、過去と現在、愛と復讐、時代を超える約束、それとタマネギ、これらが一つになって迎えるハッピーエンドには大人でもぐいぐい引き込まれるはず。2時間程度で読破できますから、お手軽な爽快感をその手にどうぞ。

「いまを生きる」N.H クラインバウム

先生は何で先生になったんですか？

生徒によく聞かれますが、私もよくわかりません。ですが、この本との出会いがなければ違う道に進んだかもしれないですね。私もこの本に出てるような奇抜でカッコいい先生になりたいです(もう手遅れ感があるのは否めませんが……)。これは映画が小説になったパターンですので、映画は名作です。

映画を見てから洋書を買って、辞書を片手に本に直接書き込みながら必死で翻訳した夏休み。中澤先生の遠い青春、思い出の一冊です。